

## 魚津埋没林博物館における蜃気楼の観測と情報発信について

石須 秀知(魚津埋没林博物館)

### 【背景・経過】

平成 4 年、博物館リニューアルに伴い観測と記録を開始→同時に各方面への情報提供や証明書発行窓口などの役割が付随→平成 13 年メールサービス開始→平成 17 年ライブカメラ運用開始

### 【観測について】

- ・職員数が少なく、蜃気楼発生が期待される日には問い合わせの対応等も増加するため、海岸で長時間待機・観測することができません。勤務体制や職務により学芸員が不在の日もあります。
- ・ライブカメラを活用し、魚津蜃気楼研究会のみなさんの情報提供等のご協力を得ながら効率よく状況把握するよう努めています。
- ・記録項目は、開始と終了の時間、観測場所、出現方向、気温、風向風速、天候、視界状態、蜃気楼の状態、ランクなどです。エクセルの表で管理しています。
- ・観測記録はホームページ内で公開しています。

### 【情報発信について】

魚津埋没林博物館で行っている現在の情報発信は、

- ・発生をお知らせするメール配信(メールマガジン「しんきろう通信」)
- ・報道機関、関係機関等への一斉 FAX 送信
- ・B ランク(後述)以上での花火打ち上げ(花火業者への連絡)
- ・観測記録の公開(ホームページ内)

が主要なものです。また付随サービスとして「証明書」の発行を行っています。

メールは、原則として博物館での観測に基づいて発信しています。観測場所によって蜃気楼の見え方が異なることは原理的に当然で、他の地点で蜃気楼が見えていても博物館の観測場所では見えない場合(逆の場合もあり得ます)があります。そのような場合、現状では博物館側で観測できるまではメール配信をおこなえません。伝聞情報を根拠に配信することはできません。これは、情報に対して責任を持つための措置です。流した情報に対して問合せなどがあった場合に「いや～、見てないので…」とは言えません。

メールは、速報としての性格から、発生初期でランクを判断するのが困難なため暫定的に低いランクとする場合が多くなります。配信後に B ランク以上になった場合はあらためて配信するように努めていますが、D、E から C になった程度の場合は、再配信はそのときの担当者の判断によります。さらに、当初は E ランク程度でも、その日の状況等で明らかに上位ランクに移行する可能性が高いと予想される場合は、見きわめのため情報発信を遅らせる場合もあります。

また、E ランクなど判別できる人が限られ、短時間で消滅しそうな蜃気楼の場合、メール配信を見合わせる場合もあります。

博物館の勤務体制などにより、メール配信ができない場合もあります。

### 【ランクについての基本的な考え方】

本来、ランクは、博物館での観測記録の上で、後々にどの程度の曇気楼だったかを参照する目安としてつけていたものです。气象台の観測のような絶対的な意味を持つ種類のものとは異なります。最終的にはその日の曇気楼を振り返って、全体を総合的に判断しているため、記録上のランクと、速報であるメールなどでのランクとが食い違う場合もあります。

ランクは、「曇気楼に関して予備知識のない人」を想定して判断しています。

予備知識のない人とは、

- ・曇気楼を見たことがない(どのように見えるのか分からない)
- ・どの方向に何が見えるのかも分からない(たとえば「生地」と言われても分からない)
- ・魚津の海岸のどこにいけばよいか分からない(生地が見えない場所にいる場合もある)
- ・どのような準備をしていけばよいのかも分からない(双眼鏡など持っていない)

など、ないないづくしの人です。現在、メールサービス「しんきろう通信」には 4300 人を超える登録者がいますが、その大多数は、上記のような人であると予想されます。このような対象に対して、「どの程度の曇気楼を見ることが期待できるか」をなるべく直感的に捉えていただくための材料と考えています。そのため、たとえば方向ごとなどにランクを細分化することは好ましくないと考えられます(現状の 5 段階でも多いかもしれない)。範囲が限定されたためずらしい変化など、重要でも経験者にしか分からないような情報はランクに反映されませんが、記録の中ではできるだけ別項目でコメントを加えて後の参考にできるよう努めています。

### 【ランクの目安】

|   |  |
|---|--|
| A | 予備知識がない人や、双眼鏡などを持たない人でも、満足できる。<br>(肉眼ではっきり識別でき、長時間(約 2 時間以上)にわたり複数の方向に現れる鮮明なすばらしい曇気楼。)           |
| B | 予備知識がない人や、双眼鏡などを持たない人でも、大半の人にわかる。<br>(肉眼でよく識別できるが、継続時間や方向、鮮明さなど何かの要素が欠ける。)                       |
| C | 予備知識がない人や、双眼鏡などを持たない人の、半数ぐらいにはわかる。<br>(「肉眼で識別できるが短時間」「長時間だが双眼鏡がないとわからない」「変化は大きい但不鮮明」「方向が限定的」など。) |
| D | 予備知識がない人や、双眼鏡などを持たない人は、大半の人がわからない。<br>(「双眼鏡で識別できるが短時間」など。)                                       |
| E | 十分な予備知識をもって双眼鏡などを使用しないと観察が困難。<br>(双眼鏡でも識別に経験を要する。)   |